

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月23日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ハチバン  
 コード番号 9950 URL <http://www.hachiban.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成25年10月25日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 後藤 四郎  
 (氏名) 酒井 守一  
 配当支払開始予定日

TEL 076-292-9950  
 平成25年11月29日

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年3月21日～平成25年9月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	3,422	0.9	3,142	0.3	248	28.9	355	41.8	200	53.2
25年3月期第2四半期	3,392	3.0	3,132	2.9	193	△2.2	250	△7.4	131	△7.1

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 207百万円 (92.1%) 25年3月期第2四半期 108百万円 (△18.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
26年3月期第2四半期	13.85	—
25年3月期第2四半期	8.82	—

(注) 営業収益は売上高と営業収入の合計であります。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
26年3月期第2四半期	4,324	2,872	66.4	198.20
25年3月期	4,050	2,694	66.5	185.90

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 2,872百万円 25年3月期 2,694百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
25年3月期	—	2.00	—	2.00	4.00
26年3月期	—	2.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年3月21日～平成26年3月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	6,672	3.1	6,145	3.1	280	7.6	392	8.9	207	27.4	14.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 営業収益は売上高と営業収入の合計であります。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	16,040,558 株	25年3月期	16,040,558 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	1,547,750 株	25年3月期	1,546,229 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	14,493,717 株	25年3月期2Q	14,847,843 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により、上記予想数字と異なる場合があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(5) セグメント情報等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、為替の円安への推移と株式市場の好転などによる景気回復基調が見られ、個人消費は持ち直し傾向にあるとは言われるものの、消費税率の引き上げ予測を背景として、依然として先行きは不透明な状況となっております。

外食産業におきましても、一部では高価格帯商品の需要が増えるなどの状況は見えてきておりますが、消費者の節約志向は強く、また、異業種との競争激化が続くなど、厳しい状況が続いております。

このような状況のもと当社グループは、継続して「食の安心・安全」の維持向上とお客様の信頼を最優先に、事業活動を展開しております。お客様に新しい価値を提供することを重要課題として取り組み、店舗改装による店舗イメージの刷新、より高品質・より健康志向の商品を開発して提供することに注力しております。

当第2四半期連結会計期間末の当社グループの店舗展開の状況は、加盟店5店舗（海外）を新規開店する一方、賃貸借契約の終了や加盟店都合による閉店7店舗（国内加盟店1店舗、直営店3店舗、海外加盟店3店舗）があり、店舗数は260店舗（前期末比2店舗減、うち国内加盟店1店舗減、直営店3店舗減、海外加盟店2店舗増）となっております。その内訳は、らーめん店舗139店舗、和食店舗11店舗、海外店舗110店舗であります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、31億42百万円（前年同期比0.3%増）、営業収益（売上高とロイヤリティ収入等の合計）は、主にタイ王国での店舗売上好調による海外ロイヤリティ収入の増加があったことにより34億22百万円（前年同期比0.9%増）となりました。営業利益は2億48百万円（前年同期比28.9%増）、経常利益は受取配当金が増加したことにより3億55百万円（前年同期比41.8%増）、四半期純利益は2億円（前年同期比53.2%増）となりました。

セグメント別の状況につきましては次のとおりであります。

#### ①外食事業

##### （らーめん部門）

日本国内における8番らーめんフランチャイズチェーンの展開を主とするらーめん部門においては、立地変化に対応したスクラップアンドビルドや店舗改装による店舗イメージの刷新、より高品質・より健康志向の商品の提供、接客サービスの維持向上に取り組み、来店客数の増加に努めております。

店舗営業面においては、4月に新商品「海とろろざるらーめん」、5月には「ざる餃子セット」の販売強化キャンペーン、6月には本年1月にタイ王国で8番らーめん営業店舗数が100店舗となったことを記念した「タイ100店舗感謝フェア」を開催し、当フェアに合わせてタイ王国の店舗で人気の高い「トムヤムクンらーめん」の限定販売を行いました。7・8月には復活販売の要望が高かった「海老餃子」を期間限定で販売するほか、9月には北陸地方4地区（富山県、石川県能登地区、石川県加賀地区、福井県）それぞれで、各地元の食材を使用した野菜らーめんを計4種類、地区ごとに期間・数量限定で販売する「じもとじまんフェア」を開催しております。

これらの営業諸施策の結果、8番らーめんチェーン既存店売上高は、前年同期比0.8%増を確保することができました。

また、新しい価値の提供への取り組みとして、テイクアウト販売の強化に取り組んでおりますが、その施策の一つとして、4月から8番らーめんフランチャイズチェーンでは初となる「らーめん商品のドライブスルー方式での販売」を8番らーめん辰口店（石川県能美市）で開始いたしました。計画を上回る好評を得ております。今後、更に販売方法の開発を進めてまいります。

店舗展開の状況につきましては、賃貸借契約の終了により加盟店1店舗・直営店3店舗を閉店し、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は139店舗（うち加盟店120店舗、直営店19店舗、前期末比4店舗減）となっております。

##### （和食部門）

主として八兆屋、長八、野ふうど等の和食料理店を直営店方式により展開する和食部門においては、個店ごとの店舗特徴や立地特性をよりアピールするほか、季節の変化に応じた健康志向メニューの提供に取り組み、来店客数の増加に努めております。これらの営業諸施策の結果、店舗売上高は前年同期比1.1%増を確保することができました。当第2四半期連結会計期間末の店舗数は11店舗（前期末比同数）であります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の営業収益（売上高とロイヤリティ収入等の合計）は29億19百万円（前年同期比1.1%増）、経常利益は4億59百万円（前年同期比8.2%増）となりました。

#### ②外販事業

当社製品を主要販売品目とする外販事業は、生麺ブランド「八番麺工房」、生冷凍餃子を国内各地の生活協同組合様、量販店様を中心に販売の拡大に努めております。

以上の結果、より厳しさを増す生麺市場の販売競争の中で、当第2四半期連結累計期間の売上高は3億99百万円（前年同期比6.1%減）、経常利益は販売費用の効率化に取り組んだことにより14百万円（前年同期比10.4%増）となりました。

### ③海外事業

8番らーめんフランチャイズチェーンエリアライセンス契約による海外店舗展開ならびに主としてラーメンスープ・エキス等の食材の輸入と販売を行う海外事業においては、既存出店地域での「8番らーめん」ブランドの確立、新規出店、スクラップアンドビルドに取り組むほか、高品質なラーメンスープ・エキスの開発と生産体制の充実増強に努めております。当第2四半期連結会計期間末の店舗数は110店舗（うちタイ王国102店舗、香港5店舗、中華人民共和国3店舗、前期末比2店舗増）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の営業収益（売上高とロイヤリティ収入等の合計）は、主にタイ王国での店舗売上好調による海外ロイヤリティ収入の増加があったことにより、1億3百万円（前年同期比28.8%増）、経常利益は74百万円（前年同期比59.3%増）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末に比べ2億73百万円増加して43億24百万円（前連結会計年度比6.8%増）となりました。これは主に機械装置及び運搬具が1億36百万円増加したことや、工具、器具及び備品が64百万円増加したこと、売掛金が59百万円増加したことによるものであります。

### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べ95百万円増加して14億52百万円（前連結会計年度比7.1%増）となりました。これは主に、短期借入金40百万円減少したものの、長期借入金1億30百万円増加したことによるものであります。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ1億78百万円増加して28億72百万円（前連結会計年度比6.6%増）となりました。これは主に利益剰余金が1億71百万円増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、平成25年4月30日に公表しました「平成25年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載した数値から変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (有形固定資産の減価償却方法の変更)

有形固定資産の減価償却方法については、従来、定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）については定額法）を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しました。

従来は、生産高の拡大見込みと技術革新等を原因とする設備の陳腐化への対応を考慮し、定率法を採用してまいりましたが、中期経営計画の策定にあたり、減価償却の方法を再検討しました。

その結果、生産高の見込みが安定的であること及び今後の有形固定資産の設備投資の内容・使用状況について検証した結果、急激な技術的、経済的陳腐化は見込まれず、長期安定的な使用見込みが確認されたため、定額法による減価償却の方法が当社経営実態を反映し、より合理的な費用配分を可能にするとの判断に至ったものであります。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、当第2四半期連結累計期間の減価償却費は18,158千円減少し、売上総利益は6,676千円、営業利益は17,012千円、経常利益、税金等調整前四半期純利益は18,158千円増加しております。

#### (会計上の見積りの変更)

当社加盟店へ賃貸しているPOS端末機器等（工具、器具及び備品）については、従来、法人税法の規定に基づく耐用年数を採用しておりましたが、更新投資を機に使用実態等を見直した結果、第1四半期連結会計期間より賃貸予測期間に耐用年数を変更することと致しました。

この結果、従来の方法と比較して、当第2四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益は1,589千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	270,522	294,707
売掛金	352,688	412,560
商品及び製品	65,891	63,332
原材料及び貯蔵品	23,980	30,545
繰延税金資産	62,902	70,132
その他	96,390	99,608
流動資産合計	872,374	970,885
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	667,713	677,162
機械装置及び運搬具(純額)	84,009	220,196
工具、器具及び備品(純額)	50,953	115,220
土地	1,079,594	1,079,594
建設仮勘定	31,717	—
有形固定資産合計	1,913,989	2,092,173
無形固定資産	32,872	41,204
投資その他の資産		
投資有価証券	332,071	360,416
長期貸付金	139,100	135,240
関係会社出資金	79,680	79,680
差入保証金	336,288	330,729
保険積立金	230,860	226,273
繰延税金資産	74,382	48,822
その他	65,507	64,765
貸倒引当金	△26,158	△25,467
投資その他の資産合計	1,231,731	1,220,460
固定資産合計	3,178,593	3,353,838
資産合計	4,050,967	4,324,723

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	209,317	233,598
短期借入金	139,992	99,992
未払法人税等	81,664	120,710
賞与引当金	89,090	89,689
未払費用	274,052	258,312
その他	60,811	50,457
流動負債合計	854,927	852,760
固定負債		
長期借入金	71,698	201,702
長期未払金	234,064	213,751
長期預り保証金	195,691	183,911
固定負債合計	501,453	599,364
負債合計	1,356,381	1,452,124
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,518,454	1,518,454
資本剰余金	1,151,650	1,151,650
利益剰余金	532,104	703,944
自己株式	△513,927	△514,477
株主資本合計	2,688,282	2,859,572
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,303	13,026
その他の包括利益累計額合計	6,303	13,026
純資産合計	2,694,586	2,872,598
負債純資産合計	4,050,967	4,324,723

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月21日 至平成24年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月21日 至平成25年9月20日)
売上高	3,132,359	3,142,081
売上原価	1,538,437	1,546,544
売上総利益	1,593,921	1,595,537
営業収入	260,603	280,379
営業総利益	1,854,524	1,875,916
販売費及び一般管理費		
運賃	145,289	140,101
役員報酬	53,848	54,433
給料及び手当	604,883	600,474
賞与引当金繰入額	76,399	78,143
退職給付費用	9,277	9,387
地代家賃	129,131	125,208
水道光熱費	90,072	93,632
減価償却費	43,035	32,979
その他	509,469	492,688
販売費及び一般管理費合計	1,661,406	1,627,048
営業利益	193,118	248,867
営業外収益		
受取利息	5,436	4,804
受取配当金	28,391	93,331
受取地代家賃	32,920	28,764
受取保険料	2,757	3,830
受取手数料	13,118	4,485
設備賃貸料	7,812	3,124
その他	5,634	2,387
営業外収益合計	96,071	140,728
営業外費用		
支払利息	1,832	1,307
賃貸費用	31,057	27,554
為替差損	1,980	5,071
その他	3,635	151
営業外費用合計	38,506	34,084
経常利益	250,683	355,512
特別損失		
固定資産除却損	335	534
特別損失合計	335	534
税金等調整前四半期純利益	250,348	354,977
法人税、住民税及び事業税	106,500	139,500
法人税等調整額	12,766	14,648
法人税等合計	119,266	154,148
少数株主損益調整前四半期純利益	131,082	200,828
四半期純利益	131,082	200,828

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月21日 至平成24年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月21日 至平成25年9月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益	131,082	200,828
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△23,015	6,722
その他の包括利益合計	△23,015	6,722
四半期包括利益	108,066	207,551
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	108,066	207,551
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

(セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月21日至平成24年9月20日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	外食事業	外販事業	海外事業	合計		
営業収益(注) 1						
外部顧客への営業収益	2,886,906	425,824	80,230	3,392,962	—	3,392,962
セグメント間の内部営業収益又は振替高	268,127	5,694	27,702	301,523	△301,523	—
計	3,155,033	431,518	107,933	3,694,486	△301,523	3,392,962
セグメント利益	424,538	13,255	46,691	484,485	△233,802	250,683

(注) 1. 営業収益は、売上高と営業収入の合計であります。

2. セグメント利益の調整額△233,802千円には、各セグメント間取引消去1,119千円、各セグメントに配分していない全社費用△235,001千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の経営管理に係る部門の費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月21日至平成25年9月20日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	外食事業	外販事業	海外事業	合計		
営業収益(注) 1						
外部顧客への営業収益	2,919,336	399,759	103,365	3,422,461	—	3,422,461
セグメント間の内部営業収益又は振替高	252,292	5,457	37,396	295,146	△295,146	—
計	3,171,629	405,216	140,761	3,717,607	△295,146	3,422,461
セグメント利益	459,385	14,634	74,375	548,395	△192,883	355,512

(注) 1. 営業収益は、売上高と営業収入の合計であります。

2. セグメント利益の調整額△192,883千円には、各セグメント間取引消去965千円、各セグメントに配分していない全社費用△193,848千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の経営管理に係る部門の費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、従来、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建

物附属設備は除く)については定額法)を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より全ての有形固定資産の減価償却方法については、定額法に変更しております。

この変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益は、外食事業で16,331千円、外販事業で27千円、調整額で1,798千円それぞれ増加しております。